

明石高専 同窓会通信 第8号

〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3

明石工業高等専門学校・同窓会

TEL・FAX (078) 946-6186

目 次

団塊の世代にエールを・・・・・・・・・・・・・・・・	田中隆一郎	1
明石高専の近況・・・・・・・・・・・・・・・・	竜子 雅俊	2
女子寮開寮・・・・・・・・・・・・・・・・	松田 安隆	3
ロボットコンテストを終えて・・・・・・・・	加藤 隆弘	4
明石高専同窓会からのお知らせ・・・・・・・・		5
明石高専建築会、退職される先生方、事務局からのお知らせ・・・		6

団塊の世代にエールを・・・

土木工学科3回卒 田中隆一郎

団塊の世代の大量退職が今年より始まる。1962年に工業発展を支える実践的な技術者の養成を目指し、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」を目的とする高等教育機関として創設された高専の二期生がその団塊の世代のトップを走る。

この団塊の世代の大量退職に対して企業側はどう受け止めているか……。今、起こっている現象は二極化していると言わざるを得ない。一つは、第一線で活躍した技術者の多くが定年を迎え、企業は技術の継承、若手技術者の育成が喫緊の課題という事態に直面し定年延長の動きが業種を問わず出てきている現象である。他方で、大変革時代、企業淘汰、コスト縮減、リストラ……。生き残りをかけた企業の椅子取りゲームの中で団塊の世代の退職は人減らしの好機と見る一面もある。この2極化の現象は今、混迷する日本社会の一面を垣間見る思いであるが、数の上では圧倒的に優位に立つ団塊の世代がまだまだ社会に及ぼす影響は少なくない。加えて、これまでに産業界に繰り出した明石高専卒業生は既に5000人を超える。中でも、既に昨年からの退職が始まっている高専一期生を加えた

団塊の世代と言われる集団が持つエネルギーが一つにまとめられ、まさに山が動くが如しの大きなインパクトを持つと自負している。

このような状況に鑑み、放っておくと雲散霧消してしまう一人一人の技術を「地域社会等の需要に有機的に結びつける」ことをテーマに一昨年からの団塊の世代を中心とした明石高専卒業生有志が山を動かそうと立ち上がった。そして、昨年3月に「特定非営利活動法人 技術者集団 ACT135 明石（理事長 愛原惇士郎機械工学科名誉教授）」を設立し、兵庫県からの認証を受け法人としてスタートを切った。以来、明石高専テクノセンターとの協働、高専祭での在校生と卒業生のパネルディスカッション、地域への社会貢献等、法人立ち上がり初年度にもかかわらずいろいろな場面で様々な活動を推進している。

現在、会員39名を有し、巨大電波望遠鏡ALMA計画に従事する技術者、南極観測隊参加技術者、技術士、経営コンサルタント、税理士そして明石高専教員OB、現役教員等多彩なメンバーが集まっている。2年目にあたる平成19年度、さらに多数の方から参加の意思表示を頂いている。

今後、実務経験者の助言・提言による社会教育の推進をはじめ、地域再生のまちづくりの推進、基礎的な科学技術の振興、ユビキタス社会に適応する情報技術指導及び教育、地域事業への技術相談による経済活動の活性化等、活動範囲を広げ、定年後もさらに自らの技術を磨き、

夢を膨らませる場として会員一同さらなるステップアップを誓っている。

同窓生の皆さん、世代を問わず集まれ！！

「特定非営利活動法人 技術者集団 ACT135 明石」へ

(URL: <http://gijutsusha-syuudan.org> 参照)

明石高専の近況

副校長 竜子 雅俊

1. 教育設備の充実

平成 16 年度に国立大学・高専が法人化されたが、その最大の柱は経費節減であり、予想していたとは言え、その現実には教育の質をも揺さぶりかねない厳しいものがある。

経費の節減は厳しく求められているところであるが、一方で教育の新しい流れに対応しつつ教育環境を改善していく必要性は寧ろ高くなっている。この 1 年の間に厳しい予算の中から全教室にエアコンと視聴覚設備を設置した。

エアコンについては、平成 18 年 3 月に 1～3 学年の全教室に設置した。これで、一部の大きな実験室を除き全てのホームルーム教室、特殊教室等にエアコンが設置されたことになる。電気料金については、節減予算の中ではやりくりつかず、一部後援会の援助を仰ぐことになった。初年度の昨夏は授業期間の 7 月中頃迄と 9 月に暑い日が比較的に少なかったことなどから電気料金の増加は予想より小幅で済んだ。

また、液晶プロジェクタ、音響装置などの視聴覚設備についても一部設置の遅れていた 1～3 年生の教室に設置し、全てのホームルーム並びに特殊教室に視聴覚設備が整備された。英語等の語学を含む多くの科目で黒板だけでなくビデオ教材や写真、場合によってはその場でインターネット上の教材を利用することもできるようになった。

2. 夏休み時期の変更

平成 19 年度より、前期日程を全て終了してから夏休みに入るように行事日程を変更することとなった。その主な理由は「近隣の大学・高専への同調」である。

多くの大学では 7 月末迄前期の授業および前期末試験を実施し、8、9 月を夏休みとしている。高専でもその方向で全国高専体育大会の日程も変更されつつある。

一方、大学・高専では一定期間企業等で実社会を体験させる「インターンシップ」が普及してきている。本校でも専攻科では必修科目として、本科では建築学科で 4 年生の選択科目として設定され、殆どの学生が夏休みを利用して参加している。平成 19 年度からは電気情報工学科でも導入される。しかし、受け入れ企業からは大学と高専とで夏休みの時期がズレていると受入期間が長引いてやり難いとの声が強く出ている。

また、本校では神戸大学との相互履修を推進しており、工学部・理学部・海事科学部の 3 学部と協定を締結しているが、これも夏休みや期末試験の時期が大幅にズレていることは受講の支障となっている。

これらのことから、本校でも夏休みの時期を近隣の大学に同調する方向で検討を進めてきたが、来年度より実施することとした。

平成 19 年度の場合、前期々末試験は 8 月 3 日(金)で終了し、追試等のない学生は 9 月末まで 2 ヶ月近い夏休みに入る。追試等もお盆までには充分終わる見込みである。

エアコンの設置で可能となったことであるが、気がかりなのはエアコンのない男子寮生である。対策として、①エアコンのある食堂を勉強部屋として開放する。②エアコンのある合宿研修所を希望者の寝室とする。など種々の案が検討されている。

女子寮開寮

本校における女子学生数は年々増加傾向にあり、平成 18 年度入学生 166 名のうち女子学生数は 26 名、平成 18 年度における全校生 839 名中では 132 名で約 16%を占めるようになってきています。このような状況のもとで女子学生の入寮希望者も増加し、この数年来たびたび女子寮の設置や運営体制などが議論されてきました。

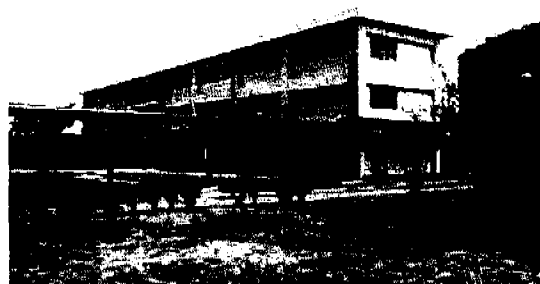
最終的には、これまで3年生男子学生が使用していたB寮を女子寮として改修して平成 17 年9月に開寮しました。女子寮の定員は 32 名で現在は 13 名が入寮しています。現在は上級生の寮生がいないため、来年度以降は定員近くの数まで徐々に増えていくものと思われます。

女子寮は、女子学生の生活の安全を確保するために、玄関に指紋認証システムや 24 時間監視カメラを設置、棟の周囲には赤外線センサーによる警報システムを導入しています。また、居住性を高めるために、全室を個室とし冷暖房を完備、各部屋にはインターネットに接続できるように光ファイバーによる LAN コンセントを用意しました。女子寮は午後 10 時から翌朝 7 時までの間は機械警備システムが作動し、玄関からの出入りできなくなります。そこで女子寮内でさまざまな活動ができるように研修室と和室の大広間を設けています。

寮務主事 松田 安隆

女子の指導寮生は寮生役員会に加わり、女子学生は挨拶回りをのぞくすべての行事に男子寮生とともに参加しています。女子が加わったことで、新入生歓迎会などの1年生の出し物がこれまでと違う雰囲気で行われるようになりました。漫才やコントは内容的にきわどいものがなくなっています。かつての寮の雰囲気をご存じの方は、寮生の気質が変わったように感じられるのではないのでしょうか。

女子寮が開寮して1年あまり過ぎましたが、大きな問題もなくこれまでやってこれました。それは優秀な学生を受け入れていることにもよると思われます。今後も女子寮が遠方の優秀な学生を受け入れ、学校のさらなる発展へ貢献できるようになることをねがっています。



女子寮（B寮）の全景

ロボットコンテストを終えて

今年度のロボットコンテストは、大阪府立高専が担当校となり、10月22日四條畷市立市民総合体育館で行われました。今年度のテーマは「ふるさと自慢特急便」。ロボットが「ふるさとオブジェ」を持ったままお堀を渡り、シーソーを渡り、ボールをスラロームですり抜け、縄跳びを3回以上跳び、オブジェを台の上に置くとゴールです。

本校より、ロボット工学研究部が A チーム「FINAL FAN たこお（ファイナルファンタコオ）」として、機械工学科、電気工学科の5年生を中心として編成された B チーム「祝御膳（イワ

機械工学科 加藤 隆弘

イゴゼン）」として出場しました。結果は、両チームとも1回戦で敗退しました。シーソーを越えに手間どり、越えたところでタイムアップとなりました。A チームは完成度が高く、学内での練習走行もまずまずでしたが、本番フィールドのシーソーに対応する調整が上手く行きませんでした。B チームは、三重跳びの自動ロボットはダイナミックでしたが、手動ロボットを時間内にゴールできるまで完成度を上げることができませんでした。昨年度は優勝し、久々に全国出場を果たしたので、期待が高かっただけに残念な結果となりました。

最終的な結果は、担当校の大阪府立高専が、優勝・準優勝し、全国大会には、優勝チームに加え、近代高専と和歌山高専が出場しました。本校Bチームは特別賞を受賞しました。さらに全国大会では、和歌山高専が準優勝と近畿勢として素晴らしい結果を残しました。

今回のロボコンは学外の方に何かとご協力を得ました。オブジェは、地域の人たちの協力を得て、あらかじめ自分たちで選定したふるさとの特産品"ふるさとオブジェ"を用意するものでした。Aチームの「タコ」のオブジェは出場メンバーの父兄に、Bチームの「鯛・酒のお膳」は教員OBの前田先生を通じて、明石ボーイスカウトに製作して頂きました。また、数年前より校内1次選考として、出場チームによるプレゼンテーションをしておりますが、このプレゼンテーションにはACT135 技術者集団より若松氏、林原氏に審査員に加わって頂きました。ロボット製作費の援助金も同窓会より頂いております。ご協力、ご援助に感謝いたします。

大会終了後のロボコンに関係した教職員、学生による反省会にて、学生は色々な要望を提示してきました。でも、その多くの内容は学生自身で解決できる事項が多くあるように感じました。これまで、何度となくピットに入ってきましたが、会場で感じることは、他高専のロボットに対するハングリーさです。ビデオカメラとメモを持ち、他チームのマシンを研究している姿には感心させられ、本校はまだまだであるように感じます。

来年度は明石高専が担当校となります。担当校としてのプレッシャーもあるかと思います。最近では大会に安定したマシンでの出場ができるようになりましたので、担当校であるということを上手く利用して、もう一つ上の勝てるマシンが作れる段階に進んで貰いたいと思います。

なお、今回のロボコンに関する記事は、学校だよりの臨時号に掲載されております。本校ホームページでごらん頂けます。



Aチーム



Bチーム

ふるさとオブジェ

第17回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(プロコン)の結果

競技部門「片付けマス」：二回戦敗退(情報工学研究部チーム)

第3回全国高専デザインコンペティション2006 IN 都城(デザコン)の結果

構造デザインコンペティション部門：佳作一点(4Aチーム)

環境デザインコンペティション部門：最優秀賞(宮崎県知事賞)、(専攻科2AC+5A 合同チーム)
優秀賞一点、(4A 学生(単独))

佳作五点、(四点：4A 学生(単独)、一点：3A チーム)

プロポザルコンペティション部門：最優秀賞(都城市長賞)、(専攻科2AC+5A 合同チーム)

明石高専同窓会からのお知らせ

① 見学会の案内

会員相互の親睦を兼ねて第1回の見学会を実施いたします。要領は以下のとおりです。お子様をはじめご家族や友人お誘いの上、お申し込みください。

日 程：平成19年5月13日（日）

見学先等：

- I. 赤レンガ博物館 : 日本海軍魚形水雷庫を改装した日本最古級の煉瓦建築物で、世界の煉瓦についての展示など
- II. 大飯原子力発電所 : 471万kW（発電機4台）の最大級の原子力発電所
- III. 舞鶴海産物センター : 様々な地元日本海で取れた海産物の買物ができる

定 員：50名（先着順、30名以下の場合中止）

参加費：無料（但し昼食等は各自で準備（途中SAで購入も可能）してバス内で食べる・博物館入館料(400円)は各自負担）

行 程：（時間は変更の可能性があります）

7:30 姫路駅前 → 8:30 明石高専 → 10:50~11:50 I. 赤レンガ博物館 →
13:00~14:30 II. 大飯原子力発電所 → 15:45~16:15 III. 舞鶴海産物センター →
18:45 明石高専 → 19:45 姫路駅前

注 意：雨天決行。服装・履物は普通のもので結構です。原子力発電所までは飲酒は禁止、帰りはOK。なお、見学中は明石高専での駐車は可能です。

申込方法：氏名（卒業学科・回数）・住所・年齢・TEL 番号・FAX 番号を記載して在校幹事へ連絡してください（できるだけメールでお願いします）。締切りは4月20日です。

② ホームページ開設のお知らせ

この度、明石高専全体の同窓会ホームページを開設することとなりました。今後内容を充実させていきます。掲載希望の原稿等がありましたら、ホームページ記載の連絡先へ連絡下さい。

ホームページアドレス（予定）

<http://www.akashi.ac.jp/contents/alumni/index.html>

開設されましたら、本校ホームページからのリンクもお願いします。

③ 役員会議事内容

平成18年9月6日に開催された同窓会役員会にて以下の議決がなされました。ご意見のある方は、同窓会事務局までお知らせください。

(1) 会報の発行について

- ・本年も郵送の形態で発行する。
- ・経理状況の逼迫より、各種行事の援助のための寄付を募る。
- ・原子力発電所の見学会を実施する。
- ・技術講演会等の実施を検討する。

(2) HPについて

学校の下でリンクを張ることになった。

藤原幹事を中心に、維持するための要員を募集する。

(3) 同窓会の事務業務について

長期的には会員で担当する。特に、早急に手当ての必要な会計について、短期間の間として在校幹事をお願いする。

明石高専建築会からのお知らせ

建築会のホームページを以下のアドレスに移動しました。ブックマークに登録されている方は変更をお願いします。“明石高専建築会”で検索しても簡単に見つかります。

<http://anctkenchikukai.sakura.ne.jp/>

明石高専建築会

検索

情報交流の場としての掲示板を設けていますので、ぜひ書き込みをお願いします。卒業生を紹介するコーナーもあります。掲載料等、一切必要ありませんので、皆様のご応募をお待ちしています。また見学会等も適宜、企画していますのでぜひ御参加ください。

平成 19 年 3 月末日で退職される先生方

機械工学科 講師 石橋 進

機械工学科 助手 花田 治行

事務局からのお知らせ

- (1) 会費の納入について 会費未納分がある方は、名簿郵送時に同封の振り込み用紙を利用してご納入下さい。
- (2) 住所変更等の連絡について 住所などの変更がございましたら、お手数ですがハガキ、FAX あるいは E-mail にて下記の同窓会の事務局の方へご連絡下さい。
- (3) 原稿募集 同窓会通信の原稿を募集しています。同窓会への注文、近況報告など何でも結構です。下記事務局宛をお願いします。

同窓会事務局の電話、FAX を設置しています。不急の連絡は下記の窓口へお願いします。なお、留守番電話と FAX の処理は 1 週間毎に行いますので、緊急の連絡は在校の幹事までお願いいたします。

〔同窓会事務局〕

〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3

TEL・FAX (078) 946-6186

〔在校幹事〕

椿本博久 (電気 2 回)

友久誠司 (土木 4 回)

八木雅夫 (建築 8 回)

國峰寛司 (機械 16 回)

江口忠臣 (機械 20 回)

藤原誠之 (機械 25 回)

荘所直哉 (建築 28 回)